

# 障害者職業能力開発校における技術革新の影響と対応に関する現状分析

○大場 麗（職業能力開発総合大学校 能力開発院）  
原 圭吾（職業能力開発総合大学校 能力開発院）

## 1 問題と目的

近年、AIをはじめとする技術革新が急速に進展しており、その影響は障害を抱える人の雇用環境にも変化を及ぼしている。実際に、障害者職業総合センターの調査研究報告<sup>1)</sup>では、特例会社の約半数の企業において、技術革新が障害者雇用にプラスの影響を与えたという結果が示されており、すでにその影響が現れ始めているといえる。こうした状況を踏まえると、障害を抱える人の職業能力を開発し、雇用へとつなぐ役割を担う障害者職業訓練においても、技術革新に対応した訓練内容や支援体制の再構築が課題となる。そのためには、現場で実際に指導にあたる職業訓練指導員が、技術革新をどのように認識し、訓練生の雇用にどのような影響があると捉えているかについて、明らかにすることが重要である。そこで本研究では、AI等の技術革新が障害を抱える訓練生の雇用に及ぼす影響について、障害者職業訓練指導員の認識を質問紙調査により把握し、その内容を質的・量的に分析することを目的とする。

## 2 方法

調査対象者は障害者職業訓練校に勤務する職業訓練指導員・講師とし、49名から回答を得た（男性32名、女性16名、無回答1名）。質問紙はMicrosoft Formsを用いて作成し、第二著者が担当する研修の際にリンクを配布し調査協力を依頼した。なお本調査は、職業能力開発総合大学校の「ヒトを対象とした調査・研究倫理審査委員会」の承認を得た上で実施した。本発表において報告に用いる項目は以下の通りである。

### （1）雇用への影響に関する認識

キャリア開発におけるAIの影響に関する吉川<sup>2)</sup>のモデルを参考に、以下の3項目を作成した。

①代替：AI等の技術革新により訓練生の仕事が代替されてしまうと思う程度

②分業：AI等の技術革新により仕事の一部が代替され、隙間業務が増加すると思う程度

③就業期待：AI等の技術革新により訓練生の就職可能性が高まると思う程度

各項目について、「全くそう思わない（1点）」から「非常にそう思う（7点）」までの7段階で回答を求めた。

### （2）雇用への影響に関する自由記述

上記の3項目に対して、訓練生の雇用にそのような影響

があると考える理由について、自由記述形式で回答を求めた。

### （3）障害者職業訓練に必要な取り組みに関する自由記述

技術革新への対応のために、今後の障害者職業訓練に必要と考えられる取り組みについて、自由記述形式で回答を求めた。

## 3 結果と考察

### （1）雇用への影響に関する認識

図1は、AI等の技術革新が障害を抱える訓練生の雇用に及ぼす影響に関する認識について、3つの項目（①代替、②分業、③就業期待）ごとの職業訓練指導員の平均得点を示したものである。あわせて、担当訓練分野（ものづくり分野・非ものづくり分野）別の結果も表示している。

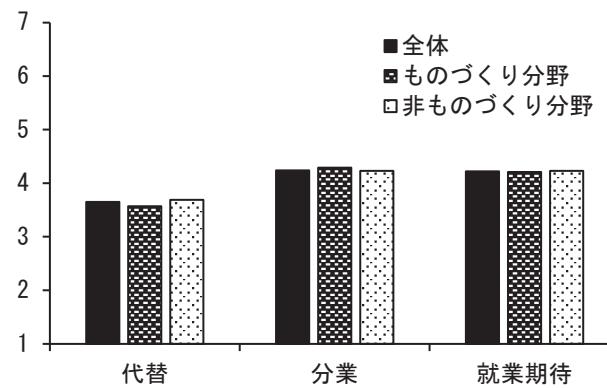


図1 雇用への影響に関する認識の平均得点

結果から、いずれの分野においても①代替の予測は尺度中心値の4点を下回っており、最も低い認識傾向が示された。一方で②分業の予想および③就業期待については、いずれも4点を上回り、ほぼ同程度の得点が得られた。ここから、ものづくり分野・非ものづくり分野のいずれにおいても、職業訓練指導員は「仕事が代替される」とする認識よりも、「分業が進む」あるいは「就業可能性が高まる」とする認識の方が強い傾向にあることが示唆される。

### （2）雇用への影響に関する自由記述

表1は訓練生の雇用への影響に関する自由記述について、ポジティブな意見、ネガティブな意見、中立的・判断困難な意見に分類し、代表的な例を示したものである。

表1 雇用への影響に関する自由記述の分類結果

<b>ポジティブな意見：20件</b>
・無くなる仕事はあるがそれに代わる仕事が創造される
・技術習得が容易になる、短縮される
・視覚データの活用で理解しやすくなる
・通勤困難な方でも在宅でパソコン操作ができるようになる
・AIの判断やサポートによって就業可能になる職業が増える
・付加価値の高い仕事に専念できるようになる
・AIにより意思の伝達が容易になる
<b>ネガティブな意見：12件</b>
・AIやDXに対応できる受講生がおらずマイナス要素が強い
・全ての企業が技術革新に精通しているわけではない
・中程度の能力の者も単純作業で働くことになるのではないか
・企業で活用できるビジョンが見えにくい
・アナログ技術や量産分野では求人が減る
・事務職が少なくなる
・AIに関連する技能を習得するには時間がかかる
<b>中立的・判断困難な意見：17件</b>
・雇用機会の減少とマニュアル作業の増加が同時に起きる
・単純労働は無くなるが能力の高い訓練生は選択肢が広がる
・わからない、判断できない

AI等の技術革新の影響について、ポジティブに捉えている意見が比較的多く、これは(1)の結果とも整合性が見られた。一方で、中立的または判断が困難とする意見も一定数あり、その中には「わからない」といった記述が5件確認された。これは、現在が技術革新の途上にあり、将来的展望が不透明であることから、今後の影響を具体的に想定しづらい状況にあるためと考えられる。しかし、障害者職業訓練においてもDX対応が求められている現状を踏まえると、今後の技術動向を見据えたうえで、障害者の職業能力開発を進めていく必要がある。また、ネガティブな意見も12件見受けられた。これらの意見には、技術革新が好影響をもたらすという一面的な見方に対して、現実的な懸念を示すものも含まれていると考えられる。こうした課題に一つひとつ向き合いながら、障害を抱えた人への職業訓練のあり方を検討していくことが今後重要となるだろう。

### (3) 障害者職業訓練に必要な取り組みに関する自由記述

表2は、技術革新への対応に向けて障害者職業訓練において必要な取り組みについて尋ねた自由記述を、内容ごとに分類し、類似する意見を集約したものである。記述内容は訓練内容の改善、職業訓練指導員の技術力向上、対外的視点の導入の3つに大別された。訓練内容の改善に関する意見が比較的多く見られたが、その中には従来型の基礎的な訓練の重要性を指摘するものも含まれていた。これは、障害者職業訓練において、いかなる職業能力を身につける場合であっても、まず職業準備性を整えることが重視されていることを反映した結果であると考えられる。また、職業訓練指導員自身が最新技術を習得しておく必要性や、対外的視点を訓練に取り入れることの重要性についても、多くの記述において指摘されていた。

表2 必要な取り組みに関する自由記述の分類結果

<b>訓練内容の改善</b>
・技術革新以前に基盤を固める訓練が必要(マナー・発想法など)
・技術革新への対応よりも適応面の向上を図ることが必要
・高度な内容だけでなく、ついていけない人向けの訓練も残す
・技術革新は既存の訓練効果を上げることに留まると思う
<b>(2) 新たな内容を導入する</b>
・早期に技術を導入する(後手に回らない)
・AIやネット、ITリテラシーの学習、情報セキュリティの訓練
・デジタルシティインシップの徹底
・様々なレベルの訓練を準備する
・技術革新のメリットを訓練生にわかりやすく伝える訓練
・新技術に慣れるための訓練
・使い方に留まらず、活用方法を体験的に学ぶ訓練
・単純な事務でなく、少しレベルアップした技能を身につける訓練
・訓練後におけるリスクリングによる職業能力の維持
<b>職業訓練指導員の技術力向上</b>
・他の職員へトレンドや技術を普及・啓蒙する指導員の育成
・自己研鑽だけでなく研修等による知識・技術の習得機会が必要
・訓練生が活用可能な技術を指導員が見出す必要がある
<b>対外的視点の導入</b>
・企業ニーズの把握と対応した訓練の実施
・企業からの外部講師の活用、現場実習の機会を増やす
・チャレンジの場を多く提供できる環境(職場)が必要
・企業で仕事として使用されているものについて訓練する
・企業の技術革新の対応状況を把握する
・社会的変化に合わせた対応

## 4 まとめ

本研究の結果では、障害者職業訓練指導員は、技術革新による「仕事の代替」よりも、「分業の進展」や「就業可能性の向上」に対して肯定的な認識を持つ傾向が示された。また、自由記述の分析からは、技術革新に対する期待とともに、雇用喪失への懸念や将来の不透明さに対する慎重な見方も確認された。さらに、今後の障害者職業訓練に必要な取り組みとして、訓練内容の改善、職業訓練指導員の技術力向上、対外的視点の導入が挙げられた。これらの結果は、障害者職業訓練において技術革新への対応を検討する際の一助となると考えられる。

今後の課題として、自由記述には「訓練生の能力の幅が大きい」との意見が見られたことから、訓練生の障害特性に応じて、技術革新がどのような影響を及ぼしうるのか、そしてどのような職業能力開発が求められるのかについて、より詳細な検討が必要である。

## 【参考文献】

- 1) 障害者職業総合センター『AI等の技術進展に伴う障害者の職域変化等に関する調査研究』, 「調査研究報告No.177」, (2024)
- 2) 吉川雅也『キャリア開発における技術と人の協働：メタ・スキルとしての深化と拡張』, 「関西外国語大学研究論集vol. 109」, (2019), p.65-83